

広島空港大橋と松江・由志園見学

右城 猛

1. まえがき

高知丸高の創業者である高野広茂会長(84)から、

「私が工事をした中で、特に印象に残っている構造物を右城さんに是非見てもらいたい」という話をいただいていた。

高野会長は基礎工事のパイオニア的存在である。誰も出来ない困難な基礎工事に挑戦し、完成させた土木構造物が全国にたくさんある。

特に思い出に残っている土木構造物を巡る旅を高野広茂・いくよご夫婦と私たち夫婦ですることになり、その第1回目として、広島空港大橋へ行くこととした。

令和3年4月10日(土)9時15分、高野広茂・いくよご夫妻が乗った大型ハイヤーが、わが家まで迎えに来てくれた。土電ハイヤーの竹内達夫氏の運転で広島空港大橋、松江の小泉八雲記念館、大根島の由志園を一泊二日の日程で見学してきた。

2. 広島空港大橋

平成23年4月20日、広島空港と山陽自動車道路河内インターおよび中国横断自動車道尾道松江線を結ぶ延長30kmの自動車専用道路「フライトロード」が開通した。

この道路が広島県道33号瀬野川福富本郷線と沼田川を横断する箇所に、橋長800mの広島空港大橋が架かっている。

主橋梁部は、鋼プレートガーダー形式のバスケットハンドル形式の鋼上路式ブレースドリブ固定アーチ橋で、その支間長380mは日本一である。左右岸側のアプローチは、鋼プレートガーダー橋となっている。

沼田川の最深部から路面までの高さは



広島空港大橋



急斜面に造られた右岸拱台

190mで、これは中四国地方一の高さを誇る。

右岸側の下部工事は鹿島建設・地崎工業・山陽工業共同企業体、左岸側の下部工事は清水建設・鴻池組・広成建設共同企業体、上部工アーチ部は三菱重工・IHI・日立造船共同企業体、取り付け部は横河ブリッジと三菱重工鉄構エ

エンジニアリングが施工を担当している。

高知丸高が鹿島建設の下で担当したのは、右岸側の仮設工事である。最大こう配 80 度の急傾斜した岩盤斜面にダウンザホール工法によって大口径削孔し、SqC ピア工法によって仮設栈橋、作業構台、インクラインを施工している。

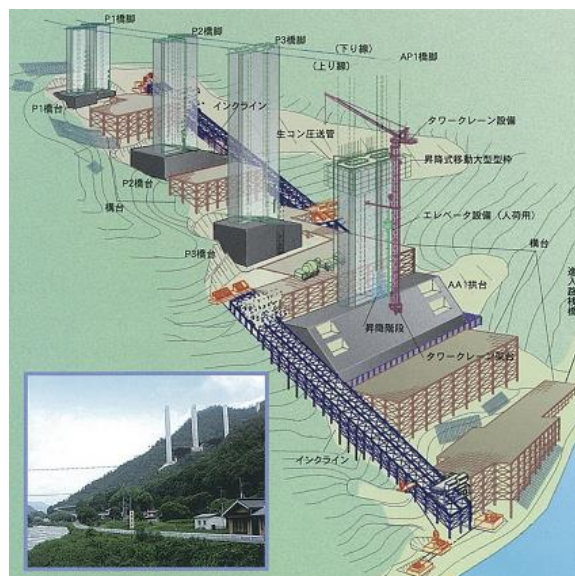
平成 11 年 8 月 30 日付け高知新聞の「おらんく経済」欄には、「独自技術で業績を伸ばす」「ダウンザホール工法 大口径削孔で全国一」「複雑な地層も深掘り OK」「作業構台で新工法も」という見出しで、高知丸高が広島空港大橋の仮設工事を行った記事が掲載されている。

鹿島建設の広報誌「月報 KAJIMA2002」June ザ・サイトには、「空港大橋右岸側下部工事－急峻な地形でインクラインが大活躍－」の見出しで次の内容が紹介されている。

『空港大橋（仮称）では、平均勾配 38 度という勾配のきつい山の斜面に、資機材や作業員を運搬するために設置された 2 つのインクライン設備が活躍している。

2 つのインクラインが稼動したのは、着工後、3 年を経てからだ。それまでは、勾配が最大 80 度にも達する斜面を階段で上り下りしなければならなかった。日常使用する資材は、一畳にも満たない工事用モノレールの荷台に載せて運び上げていた。小型の重機などはヘリコプターで分割して運び、山の中腹で組み立てた。

人跡のかけらもない山の斜面に、インクラインを構築するのは困難を極めた。高低差 230m を超える斜面には、人の背丈よりも大きい 5～10t の岩が数十メートルにわたり積み重なった場所があり、いつ転がってくるかわからなかった。そのため一つ一つに番号を付け危険度を判定し、撤去や破碎を繰り返した。ワイヤーで岩を固定させ、モルタルを吹付けてから工事にとりかかった』



右岸側の仮設構造物(広島県の HP より)



33 度の勾配のインクライン (KAJIMA2002 June より)

高知丸高が担当した仮設栈橋、作業構台、インクラインは下部工事が完了した時点で撤去される。高知丸高の功績を知るには、当時の工事記録で確認する以外にない。

3. 湯原温泉旅館「八景」

湯原温泉郷は、岡山県真庭市豊栄に位置し、温泉郷の中心を北から南に旭川が流れている。

倉吉市で講演をする機会が何度かあった。いつも三朝温泉や羽合温泉に泊まっていた。湯原温泉は前を通過するだけであり、ここに泊まるのは私も家内も初めてであった。

旅館「八景」は、温泉郷の一番奥(上流側)にある。女将の上塩浩子さんの人柄に惹かれたリピーター客が多い。高野家は、八景を常宿にしている。

私たちが泊まった部屋は、スイートルームで源泉掛け流しの温泉がついていた。家族で泊まれる広さである。二人だけにはもったいない。

料理は野菜中心の山里料理。ヤマメの塩焼きは香ばしさ満点で、頭から丸ごと食べられた。

清流を眺めながらの食事には、身も心も癒やされた。

窓の外を眺めると、対岸に公共露天風呂「砂湯」があり、男女の混浴姿が見られた。すぐ上流に湯原ダムがあるが、旭川の水は澄んで川底が透けて見える。

食事の後には、ラウンジで杉浦俊太郎氏のピアノ弾き語りのライブがあった。



八景の1F 食事処「花ぐるま」で夕食



公共露天風呂「砂湯」



旅館八景と湯原ダム



Live をされた杉浦俊太郎氏と女将の上塩浩子さん



八景のスタンダードスイート「木だち」

4. 小泉八雲記念館

翌日は、9時に旅館を出発し松江の小泉八雲旧居と記念館を見学した。松江には何度か来ているが、ここは初めて。

小泉八雲旧居は、小泉八雲(=ラフカディオ・ハーン)が英語教師として松江にやってきた際に過ごした平屋建ての家屋。元々は江戸時代後

期に建てられた武家屋敷。建物の三方に日本庭園がある。これを八雲はとても気に入っていたようである。

八雲が書斎兼居間として使っていた部屋の壁に、

『初夏ともなれば、土蔵のかげからへびが出て、蛙を食べるのを八雲は非常に哀れんで、自分の食事用の肉を皿にのせて、土蔵の石段に置き、「蛙を食べないでくれ」と言ったという話が残っている』

と書かれたパネルが飾られていた。

初夏でもないのに、我々を歓迎するかのように庭から蛙の鳴き声が聞こえてきた。あまりにもタイミングが良すぎる。「きっと、庭に蛙の鳴き声を出すスピーカーが仕掛けられているに違いない」と思い、旧居の受付の女性に尋ねると、「本物の蛙」という回答であった。



八雲が使用していた椅子と机のレプリカ



八雲の旧居に隣接した小泉八雲記念館

部屋には八雲が使用していた椅子と机のレプリカが置かれていた。机の上にはホラ貝が置かれていた。用があるときに吹いて妻のセツ(節子)を呼んでいたようである。

椅子は標準的なサイズであるが、机の脚は異常に長い。旧居に隣接した小泉八雲記念館にも同じ椅子と机のレプリカが展示されていて、次のような説明が書かれていた。

『八雲は16歳で左目を失明、右目は極度の近視であった。何種類ものルーペを使いながら本や原稿に目を擦り付けるようにして仕事をしてきた。机はそのために特別注文していた』これで不思議な机の謎が解けた。

5. 大根島の由志園

由志園(ゆうしえん)は平成20年5月に家内と訪問しているが、家内も私も記憶に残っていたのは大きくてきれいな牡丹の大輪だけで、見事に手入れされた日本庭園はまったく覚えていなかった。



由志園の牡丹



チューリップのトンネル



見事に手入れされた日本庭園

由志園は、初代園主門脇栄が昭和42年に1台のブルドーザーで造園に着手したことから始まる。昭和50年に築山式の日本庭園を開園。その後造成を重ね、現在では約1万2千坪（4万平米）の池泉廻遊式日本庭園となっている。

栄の父・由蔵が夢見志した庭園であることから、「由志園」と命名されたようである。

由志園は、その美しさと手入れの良さから日本一の日本庭園と思うのであるが、アメリカの日本庭園専門誌『ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング』が主催する、「2020 日本庭園ランキング」によれば、足立美術館が18年連続1位で、由志園は25位となっている。

6. あとがき

高野広茂・いくよご夫妻に同行した今回の旅で特に感じたことは、訪問した八景と由志園、土電ハイヤー、旅行を企画してくれた土佐パンフック旅行、そして私たち夫婦に対するご夫妻のきめ細かな心配りと、それらの人々との縁をとっても大切にしておられるというであった。

高知丸高は、高野広茂・いくよご夫妻が昭和40(1965)年に設立した会社である。55周年の令和元(2019)年度の売上高は66億円。毎年、20%を超える純利益を叩き出す超優良企業に成長している。

事業発展の原動力になっているのは、高野広茂会長のバイタリティ溢れた行動力であることに間違いはないが、ご夫妻の心配りと人の縁を大事にする優しい気持ちが大きいと思えた。

2021年4月15日